

[キーワード] 環境微生物、microcystinの分解、プロテアーゼ、固定化、
バイオレメディエーション、

[分野] バイオテクノロジー

[業種] 環境

バイオレメディエーション用環境微生物

概要

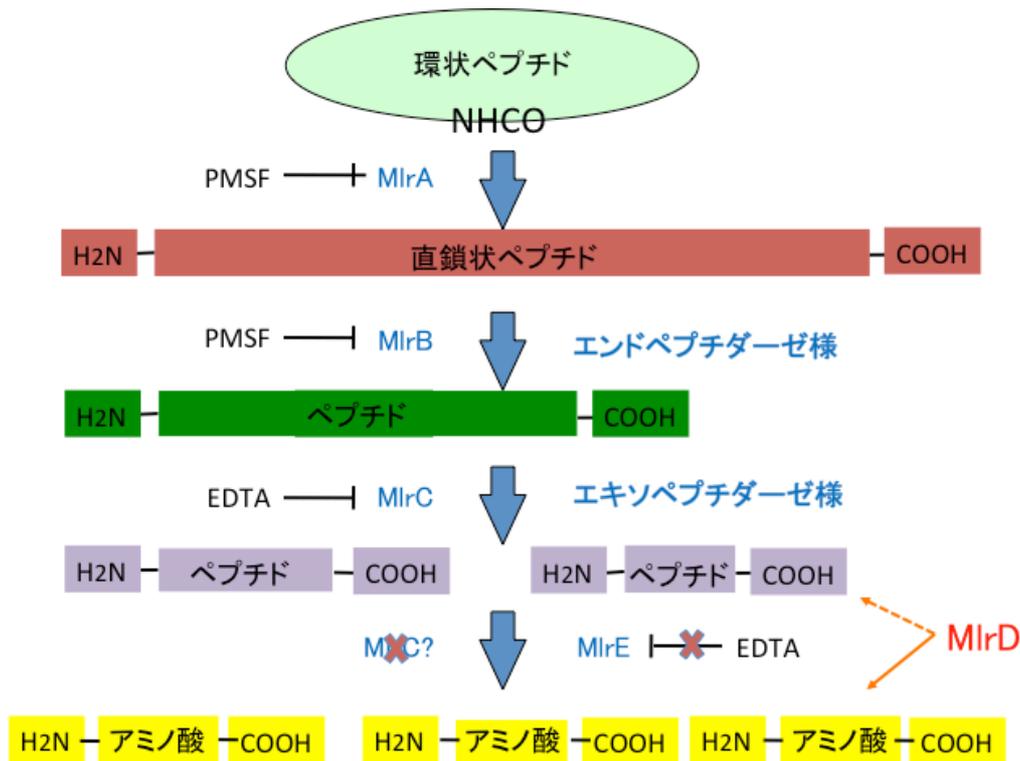
ラン藻が産生する肝臓毒であるmicrocystinを分解する目的で単離されたB-9株は、その後の研究でmicrocystinのみではなく、アミノ酸を含有するペプチドやエステル類を極めて円滑に分解することが判明した。特に、環状ペプチドにも適用でき、さらにプロテアーゼ阻害剤を効果的に用いれば、その応用が拡大する。また、適当な固定化法を用いれば「固定化微生物」として使用できることも確認されている。

研究者	薬学部	薬学科
	ふりがな	ほらだ けんいち
	名前	原田 健一
主な経歴	薬学博士（東北大学） 名城大学（現在に至る）	
所属学会	日本薬学会、日本水環境学会	



内容

環境微生物、B-9による分解機構



企業の方へ

●シーズにかかわり希望する研究課題

●コメント・メッセージ

お問い合わせは



名城大学
学術研究支援センター 産官学連携グループ

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL:052-838-2036 FAX:052-833-7200
E-mail: sangaku@ccmails.meijo-u.ac.jp
<https://kyoinjoho.meijo-u.ac.jp/search/>